

平成 29 年度 第2次総合計画 施策マネジメントシート  
(平成 28 年度の実績評価)

作成日 平成 29 年 7 月 19 日  
更新日 平成 年 月 日

総合計画体系	政策No.	3	政策名	うるおいと活力のある快適なまちの形成	施策主管課	農林商工部 農業振興課
	施策No.	12	施策名	農林業の振興	施策主管課長名	矢崎 幹男
施策関連課名				6次化拠点整備室、農林土木課、みどり自然課、農業委員会事務局		

1 施策の目的

① 対象(誰、何を対象としているのか) *人や自然資源等	② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか)
<ul style="list-style-type: none"> <li>農家の戸数(農林業センサスの数値)</li> <li>耕作されている農地の面積(毎年度の遊休農地解消の数値や、農地転用等の数値を積算した数値)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業所得が増えて、農家戸数、農業従事者の減少に歯止めがかかり、農業法人が増えていく。</li> <li>遊休農地が減少し、優良な農地が保全されていく。</li> <li>林業所得が増えて、林業経営体が増えていく。</li> </ul>
対象の大きさを表す指標 ⇒ 2-① 対象指標	意図の達成度を表す指標 ⇒ 2-② まちづくり指標

2 指標の推移、指標設定の根拠等

指標区分、指標名		単位	数値区分	基本計画現況値	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
① 対象指標	ア 農家戸数	戸	見込み値		2,750	2,485	2,408	2,330	2,253	2,176	
			実績値	2,876	2,876	2,399	2,399				
	イ 経営耕地面積	ha	見込み値		1,857	1,832	1,807	1,782	1,757	1,733	
			実績値	1,885	1,875	1,656	1,656				
	ウ		見込み値								
			実績値								
② まちづくり指標	A 認定農業者数	人	目標値		未設定	348	351	354	357	360	
			実績値	342	361	239	233				
	B 農業生産法人数	団体	目標値		14	13	13	14	14	15	
			実績値	11	10	15	15				
	C 遊休農地の比率	%	目標値		6.1	10.7	10.2	9.7	9.2	8.7	
			実績値	11.3	12.5	13.2	12.5				
	D 林業経営体数	経営体	目標値		未設定	19	19	19	19	19	
			実績値	18	18	18	7				
	E		目標値								
			実績値								
まちづくり指標設定の考え方		<p>A: 意欲ある農業者の確保状況を示す。 【農業経営基盤強化法に基づく農業経営計画が認定された農業者数の延べ人数】</p> <p>B: 農業経営基盤の強化を示す。 【市農業委員会データにおける農業生産法人数】</p> <p>C: 農業振興対策の効果を示す。 【耕作放棄地面積÷(耕作放棄地面積+経営耕地面積)×100】</p> <p>D: 林業振興対策の効果を示す。 【農林業センサスにおける林業経営体数】</p>									
目標値の設定の根拠(前提条件や考え方等)		<p>A: 計画的な農業経営を目指す農業者が、5年間で約20人の増加を見込み目標値を設定</p> <p>B: 農業経営の強化を図り、法人化を目指す個人や団体の5年間で4団体の増加を見込み目標値を設定</p> <p>C: 農地の流動化や集積の実施により、5年間で約2%の遊休化率の減少を見込み目標値を設定 【農地利用状況調査(農地パトロール)の結果の耕作放棄地面積を、前年度の耕作放棄地面積から遊休農地流動化再生面積を加え、農地転用された農地を減し、農地利用状況調査(農地パトロール)の結果の耕作放棄地面積を加えた数値で乗じた数値とする。】</p> <p>D: 南アルプス市森林整備計画に基づき、林業経営体数を減少を抑え維持・微増のため、5年間で1戸の増を目指す</p>									

3 予算等の推移

※当初予算額。骨格予算の年度は6月補正後

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
関連事業本数	86	88	106	100	98		
関連事業予算額(単位:千円)	436,066	509,276	563,225	524,071	535,761		
(予算額の内訳)	国庫支出金	1	1	23,145	23,145	1	
	県支出金	83,629	89,970	114,432	102,612	123,013	
	地方債	61,200	140,400	170,800	124,400	117,200	
	その他	8,462	12,362	47,458	39,882	39,186	
	一般財源	282,774	266,543	207,390	234,032	256,361	

#### 4 評価結果(施策の有効性評価)

<b>① 目標達成度評価 (目標値と実績値との比較)</b>	
<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	※左記の理由 ・経営耕作面積は、農家戸数の減少に比例し、減少してしまった。 ・認定農業者数は、認定基準の運用の見直しにより、認定高齢農業者の更新手続を実施しなかったため実績値が急減してしまった。 ・農業法人数は、目標値を上回ることが出来た。 ・遊休農地比率は、目標値に対し上回る実績値となった。 ・林業経営体数は、目標値に対し大きく下回った実績値となった。
<b>② 時系列比較(過去3ヶ年程度の比較)</b>	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	※左記の理由 ・経営耕作面積、農家戸数は、2015農林業センサスの数値を用いたため、移動はなかった。 ・農業法人数は、人農地プランで認定した新規就農者や規模拡大農業者を中心に、法人化による農業経営に取り組む傾向があり、今後少しづつではあるが、増加して行くと思われる。 ・遊休農地比率は、農地中間管理機構や市農業振興公社による農地集積を進めており、遊休農地面積の解消に繋がっていく傾向が見受けられる。
<b>③ 他自治体との成果実績値の比較</b>	
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input type="checkbox"/> どちらかと言えば高い成果水準である <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である	※左記の理由 ・2015農林業センサスの耕作放棄地は、南アルプス市総農地面積2,407haのうち588.8ha(24.5%)である。これが人口規模が同水準である管吹市では、総農地3,186haのうち364.0ha(11.4%)である。また、総農家戸数のうち販売農家数がほぼ同じ甲州市では、総農地面積1,908haのうち耕作放棄地227.0ha(11.9%)である。このように、県内の自治体と比較すると低い成果水準である。
<b>④ 住民の期待する成果水準との比較</b>	
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input type="checkbox"/> どちらかと言えば高い成果水準である <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である	※左記の理由 ・農業従事者の高齢化問題等に伴い、担い手後継者の確保、遊休農地の解消、農地の集積等による農業経営の効率化が期待されているが、なかなか成果が得られていない現状である。この要因は、農業は働きに対する利益が得られない、儲からないという認識が先行していると考えられる。しかし、農業生産法人等の設立等により、効率性の良い高収益農業を目指して農業に取り組む農業者も増えつつある。 ・儲かる農業を実現するための6次産業化農業への取り組み、農産物ブランドの確立やPR不足等も成果水準が低い原因の一部となっていると考えられる。

#### 5 まとめ(課題の抽出とその解決に向けた取り組み)

施策の課題 (現状の問題点)	課題を解決し、施策の実現を図るための取り組み方針	
	課題解決の方向性	具体的な改善策・取り組み内容
・基幹産業である農業の衰退	・6次化産業の拠点施設の再整備や特産農産物のブランド化の確立と新たな販路の拡大を目指す。 ・市内の意欲のある農業生産者や農業生産法人等の確保と収益性のある農業への取り組み、6次産業化への新たな取り組みや活動等を支援する。	・特産農産物のブランド化と新たな販路の開拓拡大を目指し、「南アルプスブランド戦略事業」に取り組む。 ・農産物を活用したオリジナル加工商品の開発製造等による、農業の6次産業化への支援強化に取り組む。 ・農産物のPR販売を展開する、儲かる農業等を確立させるための施設となる「6次化拠点施設」の再整備に取り組んで行く。
・意欲のある担い手農業者等の不足	・新規就農者や意欲のある農業従事者等を地域ぐるみで指導育成し、継続して営農に従事していける仕組の構築に取り組む。 ・農業の技術習得を通じて、楽しく農業を続けていける仕掛け等が必要である。	・「地域おこし協力隊支援事業」等により、営農知識及び農業技術等を指導育成が出来る受入機関と連携を図り、定住し就農を考えている新たな担い手農業者を支援して行く。 ・人と農地の問題を繋げる「人・農地プラン」を作成するための地域の話し合いを開催し、意欲のある農業者、新規就農者及び農業生産法人等の参加を呼びかけ、地域の中心経営体となるよう支援して行く。
・農地の利用集積の遅滞	・意欲のある農業従事者、農業生産法人等が、規模拡大を検討しているが、果樹園の農地集積は難しい状況である。 ・利用権設定をして農地の賃貸借を行っても、農地を返してもらえないという心理的な印象が、集積が進まない壁のひとつとなっている。 ・農地の利用集積の推進を図る。	・「経営規模拡大を希望する意欲のある農業従事者には、農地集積等について情報交換を行う「人・農地プラン」の話し合いへの積極的参加を呼びかけ、農地の集積が図れるよう支援をして行く。 ・農地中間管理機構の事業により、優良農地や遊休農地の貸し借りに対する協力金交付制度についての周知啓蒙に取り組み、農地の利用集積が積極的に進められるよう支援をして行く。